

## - 第2章 -

### 南フランスで計画されたイベント、“J.S.” はなぜ失敗したのか？

#### ～日本とフランスの関係を阻害する者は誰か？被害者たちの証言から～

今回、フランスにおける日本アニメ・マンガ・イベントの謂わば「黒歴史」を御紹介する事に、私は同じフランス人として恥ずかしくと思いますが、これらの事例を御紹介する事により、フランスにおける日本アニメ・マンガ・イベントを取り巻く状況を日本の皆様に知って頂くと同時に、日本とフランスの健全なる交流が促進され、日本とフランスの関係を阻害する悪い人間がフランスのアニメ・マンガ業界から駆逐される事を願うからです。

これから御紹介致します事例は、ほんの数年前に実際に起きた事例であり、かなり悪質な事例の一つだと思います。ここで取上げられている件は現在でもフランスのネット上で議論されており、登場致します「怪人 V」については、この他の悪行についても報告されています。（日本人の被害者もいます）

尚、登場者の氏名は名誉のために全て伏せさせていただきますが、証言はすべて当事者から直接聞いたことをそのまま翻訳致しました。

#### <R.L. 氏の証言>

事が始まったのは、ヨーロッパの S 国に実在するごく普通のアニメ商品の専門店 T 社からでした。市場の拡大と会社の発展を試みていた T 社の社長は、ただ商品を売っただけではなく、ヨーロッパをはじめとしたフランス語圏に新たな商品の交易・流通の方策を考え始めていました。さらに、その日本との文化的な交流を S 国の歴史に刻むためにも、日本からの商品が売れ、また日本からのゲストを呼べるイベントを立ち上げようと決心したのでした。

それを実現するべく、T 社の社長はとある人物、「怪人 V」（本名は伏せておきます）に協力を求め、彼を日本に送りました。そこでの彼に求められていた活躍は、日本のアニメ業界の企業とコンタクトをとる事と、日本で T 社の関連会社を設立することでした。しばらくの間、事はうまく運んでいたように見えていました。 実際、日本の歌手 Y.M. さんを “Cartoonist 2002” でゲストとして招待してみせることに成功しました。

順調に進んでいると思われていたため、やがて T 社の社長は事業に対するその展望や構想を大きくして行き、仲介業者・仲介役を減らして日本の企業が自分の商品を S 国をはじめとしたフランス語圏に直接売るためのアニメ翻訳サービスの事業を立ち上げる事も考えるようになりました。そして、その成功を証明する場として注目度の高いイベントを立ち上げ、T 社の存在感をフランス語圏全体にアピールする事が T 社にとって重要課題となっ

て行きました。

しかし、結果的に T 社も「怪人 V」の被害を被る結果となってしまいました。

## <E 氏の証言>

その T 社から、「怪人 V」が T 社の関連会社である N.I.社を日本で立ち上げる権限を与えられることになったとき。私は S さん（当時は、怪人 V の友人と仕事上のパートナーでした）から、南フランスで日本のアニメ・マンガ・ゲームのイベント“J.S.”のプロジェクトとそれに絡んだ翻訳の仕事の話を聞いて、興味を抱きました。

数日後、日本在住の「怪人 V」からの連絡を受け、プロジェクトの内容を説明されました。プロジェクトの本来の目的は、“Cartoonist”（前章参照の事）がなくなった現在（当時は 2004 年）、南フランス地域において、当地域を代表するようなイベントを設立することでした。さらに、「怪人 V」からアニメやマンガの翻訳チームを立ち上げるつもりであるとの事でしたので、日本語に長けた人手が必要でした。私は 10 人ほどの有志達に心当たりがありましたので、彼等に参加を求めました。

さらに、「怪人 V」は私の家にフランスにおける N.I.社の事務所を作る事まで考えました。なぜなら、私の家はフランスの中心地であり、情報発信拠点としてもインフラが整っている国際的な知名度も高いパリ市内の住所を持っていたからです。

イベントを立ち上げるために、開催候補地となるいくつかの市役所と連絡を取りました。M 市に予約を入れるところまで行きました。その途中で、私は“CARTOONISIT”の主催者であった O.G.氏が、M 市での“Cartoonist”復活を図っていたことを知りました。

イベント“J.S.”の BBS が立ち上げられた時、サイトの管理者が怪人 V の命令で、私は日本のアニメの翻訳作業に集中しなければならないという理由により、私から BBS 管理者の権限を剥奪しました。実際は、日本のアニメの翻訳だけでなく、スタッフや企業・関係先との連絡の取り合い、市役所や会場、各関係機関などへの手続き等、ほとんどすべての仕事をしていましたし、それらの負担と責任などが集中したため、私は彼へ仕事上の意見や文句を言いました。つまり、その「怪人 V」が、次第に私と私を影から手伝ってくれていた私の妻を、彼は将来自分自身にとっての脅威になると感じ、排除したに違いないと思います。それだけ、私は“J.S.”開催に関する最も重要な仕事をしていました。実際、「怪人 V」は指示や命令は出すものの、彼自身は直接責任ある仕事には携わず、すべて他人任せであり、仕事の内容についてまったくタッチしていないにも関わらず、横柄な態度ばかりでスタッフ達は辟易していました。これだけなら単なる「横暴な上司」という印象かもしれませんが、実はもっと性質の悪い人物である事を後から知りました。しかし、それは本稿の話題から逸れますので割愛させていただきます。

しばらくして、“J.S.”のほとんどの手続きや連絡の取り合いが終わった段階で、私は怪人 V からお払い箱にされてしまいました。

2004 年、S 国や日本に加えてフランスの事務所が立ち上げられました。事務所と言っても、あくまで各企業と繋がりやコンタクトをとるためだけの場所であったのですが。現場を処理していたのはフランスで「戦隊もの／特撮もの」などのプロモーションを展開していた団体の主催者 S さんと、十数人ほどのスタッフ達です。（因みに“Epitanime”で

は、毎年の開催を実現させるために、百数人規模の学生スタッフを要します)でもだからと言って、成功は決して夢ではありませんでした。なぜなら当時、”CARTOONIST” 無き南フランス地方では「大きい」と言えるイベントが他にまったくありませんでしたし、それなりの財政支援も各方面からあったのです。また、ただのファンの団体・Fanzine サークルよりは日本とも繋がりもありました。なにより、スタッフ達の情熱がそれを支えていました。

2004年の6月頃には、開催地の候補として、三つの市が挙げられました。いずれも南フランスの地中海に面した Toulon 市, Marseille 市と、M 市です。

Toulon 市は、”Cartoonist” の開催地としての前例があり、そのため会場もファン達には知られていて十分候補地としての条件を持っていましたが、市役所との揉め事のせいで、当局との交渉には困難が予想されていました。

Marseille 市は、”Cartoonist” が開催地として先に予約して押えられていましたので、諦めざるを得ませんでした。(しかし、結局 ”Cartoonist” の復活は失敗しました)

2004年の末、今まで働いていたスタッフ達は突然みんな怪人 V によって首にされ、彼がすべての企業との繋がりと仕事を持ってトンズラし、日本へ高飛びして消えてしまいました。その際、事務所の所長は、所長1年分の仕事の給料として、その重責にも関わらず、なんとたったの150Euros (1Euro=¥120として¥18000円ほど)しか、「怪人V」から支払われなかったのです。結果的に「怪人V」以外の誰もが、その貴重な時間と多大なる労力と経費、そして何より私達に期待を寄せてくれていた南フランス地域をはじめとするフランス語圏の日本アニメ・マンガ・ファン達を失望させ、信用を失ってしまう事になったのです。

これは私が携わったイベント ”J.S.” の実話です。

結局、開催は実現されなかったのにも関わらず、各役所には、『日本のアニメ・マンガ・ファン達は無責任なバカ共』という悪い印象を残す結果になりました。

2008年の秋に、パリから日本の皆様の健闘をお祈りして・・・。